

## 論文番号 126

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Dietary saturated fatty acids reverse inflammatory and fibrotic changes in rat liver despite continued ethanol administration

食事の飽和脂肪酸は慢性的なエタノール投与にも関わらずラット肝臓における炎症及び線維性変化を防ぐ

執筆者

Nanji, A. A., Jokelainen, K., Tipoe, G. L., Rahemtulla, A., Dannenberg, A. J.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

J Pharmacol Exp Ther, 299(2) 638-44, 2001

キーワード

飽和脂肪酸、肝臓、エタノール

要旨

本研究は慢性的なアルコール投与によるアルコール性肝障害食事性の飽和脂肪酸の効果を調べた。雄ウィスターラットは魚油—エタノール食を 8 又は 6 週間食べさせた群、魚油—エタノール食を 8 又は 6 週間食べさせ、その後同カロリーのパーム油とエタノールを含む食事を 2 週間与えた群または中鎖トリグリセリドとエタノールを含む食事を 2 週間与えた群、魚油とデキストリンを含む餌を 8 週間与えた群に分けた。肝臓のサンプルは組織病理学的、脂質酸化、NF- $\kappa$ B 活性化、Cox-2, TNF- $\alpha$  について測定した。魚油—エタノール食を 8 又は 6 週間食べさせた群ではもっとも強い炎症が観察され、エンドトキシン、脂質酸化、NK- $\kappa$ B の高いレベルが、Cox-2 や TNF- $\alpha$  mRNA レベルが高くなっていた。飽和脂肪酸が豊富な食事ではアルコール誘導性の細胞壊死、炎症、繊維化の頻度は多くはなかった。飽和脂肪酸の臨床的效果は、エンドトキシンや脂質酸化を減少させ、NK- $\kappa$ B の活性化が減少し、Cox-2 や TNF- $\alpha$  活性化レベルも減少させることによると考えられる。